

# 姫路海軍航空隊

## 【パイロット養成のための航空隊】

昭和17(1942)年9月、海軍呉鎮守府建築部は、土地の起伏や家屋が少ないこと、そして近くに播丹鉄道「法華口駅」があり物資輸送、兵員の移動に適することなどの条件が叶う、当時の兵庫県加西郡九会村鶉野に飛行場建設を決定しました。

完成まで10年かかるといわれた飛行場建設でしたが、1日3千人以上が飛行場建設に従事し、わずか1年足らずで成し遂げられました。

昭和18(1943)年10月、搭乗員養成の姫路海軍航空隊が開隊され、甲種予備練習生である多くの若者たちが練習を行っていました。

## 【束の間の休息—地元・加西との交流】

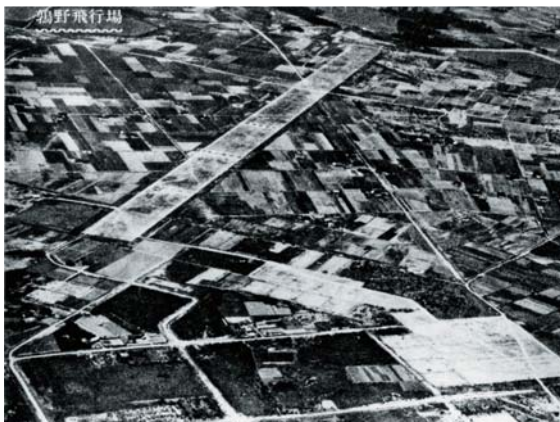
練習生にとって、航空隊生活の楽しみは、飲食や行動も自由に、1日をのんびり過ごすことができる日曜日だったといいます。航空隊の門を出て、かばんや風呂敷包みを抱えて法華口駅までの坂を下り、列車に乗って市街地の北条まで行き、航空隊が斡旋してくれた下宿に向かいました。下宿先では、ご馳走でもてなされたり、畳の上に寝そべて雑誌に目を通したり、練習生にとって自宅と同じ気分で、隊での緊張がほぐされたそうです。

## 【神風特別攻撃隊『白鷺隊』の編成】

昭和20(1945)年2月8日、日差しが穏やかな朝、搭乗員たちに集合がかかり、姫路海軍航空隊司令、露木大佐より次のように言い渡されました。「本日我が姫空など海軍の実用機練習航空隊をもって、第十航空艦隊が編成された。貴官らの知るとおり戦いは重大な局面を迎えている。練習航空機もこの敵と対決せざるをえない時が来た。十航艦は全所有機を以て特別攻撃隊を編成することになった。参加か否かは貴官ら各自の判断に任せる。後刻、飛行長まで申し出てほしい。」

そして2月10日、姫路空隊員により編成された特別攻撃隊は、姫路城にちなんで「護皇白鷺隊」と名づけられました。その後厳しい寒さの中で水平飛行や突入訓練を重ね、3月23日、特攻隊の待機基地となる大分県・宇佐海軍航空隊へ進出していきました。

4月1日、沖縄本島にアメリカ軍が上陸を開始。「菊水作戦」(特攻作戦)として白鷺隊員は6回にわたって鹿児島県串良基地から出撃し、63名の若者が戦死しました。特攻隊員たちの多くは、17歳から28歳までの前途有望な青年たちでした。



戦後もなく撮影された鶉野飛行場  
提供資料 上谷昭夫氏



出撃前のパイロットと見送る同期生  
提供資料 上谷昭夫氏

# 【加西、姫路の戦争遺跡・関連施設】

## 加西市



北条鉄道法華口駅



素掘りの防空壕跡



爆弾庫跡



衛門前防空壕跡



機銃座跡



巨大防空壕跡(自力発電機室)

## 【加西、姫路の戦争遺跡・関連施設】



滑走路跡



平和祈念の碑



鷯野飛行場資料館



当時の格納庫を模した備蓄倉庫

### 姫路市



太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔及び平和資料館



平和資料館(内部)